

## 第3回（仮称）学習文化交流施設基本計画検討委員会会議概要

【日 時】平成21年11月27日（金） 14時00分～16時20分

【出席者】委 員：10名（欠席：3名）

事務局：政策企画課長、まちづくり推進室3名、生涯学習課1名

コンサルタント：1名

### 1 開会

委員長挨拶

3回目ということで、2回目に3つの大きな機能について基本的な考え方が示され、面積等も細かく示されてきたので、全体の建物の概要はかなり見えてきたのではないかと思う。既にみなさんはいくつかの施設をご見学されたということなので、今日さらに活発なご意見が出るのではないかと大変期待をしている。今日は具体的には敷地の特性を分析した上で、どういうふうな敷地の使い方をしていくのかということも含めて今日細かく検討するということなので、どうか活発なご意見をお願いしたい。

### 2 報告

事務局にて視察内容について説明。前回の検討内容について確認(資料1)。

### 3 案件

委員長：最初に立地だが、今回A案、B案と示されているが今日の会議はA案B案どちらの案が良いかということを決める会議ではない。あくまでもA案B案を参考にしながら場合によっては複合的な案が出てくることもあるし、これは考えの拠り所にしていただいているんなアイデアを出して頂きたい。

委員：P4配置パターンBは敷地の後退で道路を確保する、とあるが一方通行は両方向通行になるのか？

コンサルタント：市道の一部を利用することになり市側で検討していかなければならないが、基本的には対面通行が出来るだけの広さにはしていきたいとは思っている。

委員：交流広場はどういう利用を想定しているか？全国いろいろな図書館を見ておりこういう施設が多いが、なかなか上手く使えていない。目的がはっきりしないものは使いにくい。下手をすればまったく使われないスペースになりかねない。

委員長：2番目の施設の中でもう一度議論したい。

委員：資料の黄色い民地の将来的な取得の意向は？

事務局：いまの段階でどこにも相談していない。一体で利用することがベターとは思っている。

委員長：取得し得ることも含めて全体の配置に影響が出ないような配置計画を進めていただく、ということになるのかと。

委員：B案は大型車両の出入りが問題。現状からはA案が良いが、駐車場の確保などの問題が出てくる。

外側の交流広場が本当に必要なのか？駐車場にした方が施設が生きるのではないか。

委員：広場は良いと思うがA案は公園になっており車が通れないのは具合が悪い。

委員長：駐車場がわかれていると利用者も含めて運営上難しい。イベントが終わった時200数十台が一斉に国道に出て行くが、その動線が本当に良いのか？入る時は国道から入って出る時に西側に抜けるのは可能か？

コンサルト：西側の道路から国道に出るには北側は90度以上の曲がり角、南側は幅4m程の道路で困難。

委員：学校図書館等と連携して図書館からものを運ぶことを考えると図書館から管理用駐車場が離れていると不便。結構物を持って歩くことが多い。実際の運用を考えるとかなり苦労すると思う。

コンサルト：管理用駐車場は文化ホールの搬入口のイメージで考えている。それぞれのゾーンの管理用駐車場は別に配慮していかなければならないと考えている。

委員：人と車の動線が横切るのは危険。図書館とか市民センターは日常的に使われる。ホールは催し物はおそらく年間で5～60回ぐらいだが来場者が一度に出てくる。300日使うものと60日しか使わないものはかなり状況が違う。これが交差する形になるとお互いが影響を受けてしまう。

委員長：サービス用の動線、車の動線、人の動線、そういうのがどういうふうにならざるにそれぞれの配置の中になるかを書いて頂くとクリアになる。事務局には最終的には図でお示し頂きたい。

委員：建物が隣接している場合には必ず近くの住民からクレームが来ると思う。これだけの人が来る施設だから。計画で配慮しないと厳しい。

委員：雪捨て場は想定しているか？

コンサルト：駐車場の一部活用を考えている。駐車場に溜まってからはこれからの検討事項。

委員：融雪の設備は出来ないか？これだけ大きい施設だと運営大変だと思うが。

コンサルト：融雪も部分的には必要になる箇所もあると思う。敷地全体の融雪は経費的に厳しい。

委員：芝生は維持管理が大変。考慮しないと。まちなかだと維持管理を常にしなければならない。自然のものは維持管理を考えた上で配置を考えておかないと厳しい。

委員：視察に行った北上の施設はテーブルや椅子が点在しあらゆる場所を市民が自由に使えた。あれであればあまり場所をとらなくていい。建物を利用する人たちが交流出来ることを考えた方が。

委員：広場に人が集まるというよりは建物の中に人が集まる形をメインにした方がいい。理想論では広場も緑がいっぱいあって、というのが10年経ったことを考えないと。ここの施設の場合は出来るだけ人を集めたい発想があり、外の広場でなくて中の広場に求めていく考え方がいいのでは。

→委員長：冬の長い地域なのでご意見の通り。大きな広場ではなく効果的に小さな広場をうまく配置すればそれだけで豊かな空間になる。

委員：身障者の方の駐車場が施設ごとに複数台分必要。複合施設なので、施設毎に近い所にもたないと。

委員長：いずれ触れなければならなければいけない。バリアフリー、あるいはユニバーサルデザインをどういう考え方で進めていくか基本的な方針はどこかで述べていただくようお願いしたい。

委員：来やすさを考えると交流広場はカットせずに重要な部分として捉えてつくっていただきたい。子育て支援施設も保育園前の未満児が多く駐車場から離れていると利用し辛い。使う頻度を考える

と文化ホールに広い駐車場をつくるよりは頻度の高い市民センター、子育て支援、図書館の方に駐車場がある方が利便性が高い。

委員：市民センターと小ホールは離れてないようにつくっていただきたい。いまの市民センターが行っているような事業がかなり行えなくなってしまう。流れがスムーズにいくようなものに。

委員：最初から市民センターが3階とか上になっているが、1階に持ってくることは？

委員：いまの市民センターでは上がれないから2階はすごくいやがられている。ただ、複合施設ではエレベータをつくっていただけということなので解決まではいかなくても慣れてしまえば。

委員：図書館は1時間程度の短い利用で出入りが多い施設。公民館的な施設は半日居たり。一度に大量に上がるような所でなければエレベータ1、2台あれば十分に対応できるかと思う。

委員：市民センターの活動団体は音を出す団体が結構あるが、防音設備はどうなるのか。

コガタケ：防音については床をコンクリートにし、音の出る状況に対応する部屋を作る。

委員：図書館が1階と2階に別れるケースはそれぞれの階にサービスカウンターを設置して人を最低限一人ずつ配置しなければならなくなるが、この人件費がばかにならない。なるべく集中的に管理したほうがよく、2層に分けるよりは1フロアにしたほうがよい。

コガタケ：管理運営ということで次回で触れようと考えていた点。

委員：図書館は本を借りる場所のイメージだったが、新しい図書館の考え方はそういうことを止めつつあり、ビジネス支援や高齢者支援や子育て支援をやっている。一体的にサービスを考えた方が人の面でも効率がいい。同じような目的を持っているものはくっつけてしまい、例えば児童サービスのカウンターで子育て支援の相談もやるというように。

委員：ホールは出来上がったものをそこで観るイメージしかないが、それを創るまでの道具を作ったり練習したりしている過程で一番使われる。そのスペースが意外と忘れられている。私は芝居をやっていて東北各県の会館を見ているが、立派であり傷付けるなという所は使いにくく、市民が常に動いていてそれを支援している所は使いやすい。視察したさくらホールの大アトリエは床がベニヤ板になっていて汚してもいいということだった。市民が楽器など大きい道具を持って帰らなくてもいいよう収納する場所があることにも関心した。普段の活動にポイントを置いた管理運営の計画になればいいと思う。

委員：今進行している由利本荘市は、真ん中に広場があってショップがある街並みを造ってその両脇に図書館、ホールを配置する。紫波町も同じで、街を創って、真ん中に広場を造って図書館とカフェを造ることを考えている。図書館も利用できる、ちょっと疲れたらお茶も飲める、いろんな展示も見れる、イベントまで図書館で本を読んで待ってからホールに入っていくとか、そういう連携をしていけばこのゾーンで一つの賑わいの街にもなると思う。冬の寒い時期にもここに来て交流ができる施設になると思う。年間入場者数の想定は15万人となっているが、これだけの施設で15万人だともったいない。

委員：お金を掛けて大きなイベントを常にやるのは厳しい。5～700席のホールは微妙なサイズで大きなイベントは採算が合わない。最初から市民に開かれたホールを考えた方がいい。

委員：街を活性化させるには市民の交流以外で他からお金が落ちる仕組みを考えなければ。中途半端な大きさのものを造って、そこでただ市民が交流をして終わるのはお金を掛けるのがもったいない。6～700人は一番やりにくいとの話もあり、もっと大きくしてもいいのでは？

委員：大館の大ホールはなかなか使えないで満席にもならない。400席の中ホールはよく使われている。それを考えると鹿角は5～600席あれば間に合う気がしている。1,000以上の大きいのは大館に任せて棲み分けを考えればいいのではないか。

委員：あまり大きすぎても使いづらい。文化ホールに関しては大は小を兼ねない。ビッグネームのアーティストを呼んで、若い人達が集まるようなことは魅力を感じるが、それが年に何回できるか考えたときにコスト、他のイベントとの絡みを考えると、今の5～600人がいい。

委員：中央からアーティストを呼ぶとなると1,500席は必要。秋田市でも1,800席の県民会館でしかできない。ホールだけを建てるならそれでいいかもしれないが、他の施設が無理になってくる。維持費も掛かる。県内の状況を見ていると200席位の所が一番需要が高く、若者のイベントも行われている。

委員長：市民が使い込んで創り上げていくホール、というおもしろいコンセプトも出て、一方では採算も含めて呼べるホールというものもあるが、その辺も含めて整理したコンセプトを立てて進めていただきたい。コンサートに限らず、地域の活性化の問題も含めて、どのように外部から人を呼んで来られるような施設を造るという議論がまだあまりされていないので、是非その辺のご意見もいただいて新しい考え方が施設に入ってくれば非常にいいと思う。次回はその辺のお話も。

#### 4 その他

市民センター機能についての意見について

花輪地域づくり協議会の運営委員会（委員20名）を11月10日に開催する際に、事前に意見を出してもらいながら集約した内容について、委員（花輪地域づくり協議会事務局長）が説明。（別紙参照）

事務局：市民センターに関しては基本計画の内容をまとめたもので次回検討いただきたい。

子育て支援機能についての意見

急遽欠席となった委員の意見を代理で紹介

委員：前回資料で遊戯室200㎡となっているが、現在の児童センターは150㎡にさらに畳の部屋もある。200㎡では足りないのでは？

事務局：児童センターをそのまま移すのではなく、子育て支援センターとファミリーサポートセンター機能を移す。活動に必要な適正な規模を計画していきたい。

委員：子育て支援について実際に活動しているサポーターなどからも意見を聞く必要があるのでは？

事務局：担当部署の福祉課の意向を捉えながら検討しているが、今後サポーターなど関係者の意見も把握しながら検討していきたい。

#### 5 閉会

16時20分閉会